

<講座詳細一覧>

2026年10月開講講座について、講座毎に「授業日程」
「講座内容」「講師からひとこと」「講師プロフィール」などを掲載してあります。

講座内容、日程については、記載されている内容から一部変更される場合がございますので、ご了承くださいませようようお願い申し上げます。

ご不明な点がございましたら、下記電話番号まで、お問い合わせさせていただきますようお願い申し上げます。

古文書塾 “てらこや”

〒100-0012

東京都千代田区日比谷公園 1-4
日比谷図書文化館 4 階

TEL 03-3502-3340

FAX 03-3502-3341

(日比谷図書文化館 代表番号)

≪受講料≫ 資料代込み (初回一括払い)

入門コース・・・20,000円(120分 全5回)

本科コース・・・20,000円(120分 全5回)

特別講座・・・17,500円(90分 全5回)

特設・月1回・・・10,500円(90分 全3回)

※ 特設月1回コースのうち、「『百人一首』を2種類の変体仮名でよむ」は、『変体仮名でよむ 百人一首』(伊藤・吉村編 新典社 2025 年 特別価格 2,200 円 税込)を、別途テキストとして用います。
く お手持ちでない場合は、弊塾にて承ります。>

★受講料以下すべて開講日 4F 受付にて現金でお支払いをお願いいたします。

〔講座名〕 入門コース（初心者向け）

古文書のいろは

ー筆字のくずし字



〔講師〕

井坂綾 下向井紀彦 今野大輔

蒲生眞紗雄 藤富史花

〔講座内容〕

くずし字が読めるようになりたい。でも最初の一步が踏み出しにくい、という方のための講座です。くずし度の小さい江戸の手習い手本を用いて、読解の手順とコツを学びましょう。「くずし字辞書」を使ったり、毛筆、硬筆での筆写も併用して実践的な力を養います。ついで版本のくずし字や武家・村方の文書など、多様な文書に挑戦し、江戸のくずし字の奥深い魅力に触れつつ、読解力・応用力をつけていきましょう。展覧会や博物館で、くずした文字に出会ったら、大体の見当はつくというようになりたいですね。

〔講師プロフィール〕

〔井坂 綾〕

専門は幕末から近代にかけての江戸・東京の文化です。芸芸員として掛軸に書かれた書跡や書簡・日誌などを扱っています。

〔今野 大輔〕

日本民俗学を専門にしており、柳田國男の書簡や原稿などのような、近代のくずし字資料を中心に扱っています。

〔下向井 紀彦〕

専門は近世流通経済史。主に三井越後屋の仕入・販売、近世瀬戸内港町（特に尾道）の商業・産業・地域振興策などを研究しています。

〔蒲生 眞紗雄〕

専門は近世政治史。東叡山寛永寺護国院や本所御蔵・陸軍被服廠跡などの発掘調査で文献調査を担当し、現在は台東区下谷の広徳寺跡の遺跡の文献調査に従事しています。

〔藤富 史花〕

専門は江戸後期の漢詩文。江湖詩社の柏木如亭・大窪詩仏・菊池五山や頼山陽など、江戸後期の文人について興味関心を持ち、研究しています。

〔授業日程〕

月曜日クラス【朝】 10:30～12:30（井坂）

日程：全5回（10/12、10/26、11/9、11/30、12/7）
予備日 12/28

月曜日クラス【昼】 13:30～15:30（今野）

日程：全5回（10/5、10/26、11/9、11/30、12/7）
予備日 12/28

火曜日クラス【朝】 10:30～12:30（下向井）

日程：全5回（10/13、10/27、11/10、11/24、12/8）
予備日 12/15

木曜日クラス【昼】 13:30～15:30（蒲生）

日程：全5回（10/1、10/15、10/29、11/12、11/26）
予備日 12/10

金曜日クラス【夜】 18:30～20:30（蒲生）

日程：全5回（10/9、10/23、11/6、11/20、12/4）
予備日 12/11

土曜日クラス【朝】 10:30～12:30（藤富）

日程：全5回（10/10、10/24、11/7、11/28、12/12）
予備日 12/19

※ 各クラスの間で振替出席が可能です。

いろはの次

「いろは」と「本科」の中間のクラスはないだろうか、
こうしたご希望に応えようというのが「いろはの次」
です。くずし字の判読についても「いろは」同様丁寧に
解説すると同時に、ある程度まとまった史料を読み
み、内容も楽しんでまいりましょう。

いろはの次

－古文書いろいろ



【講師】 出口 宏幸

火曜日 午前クラス 10:30～12:30

火曜日 午後クラス 13:30～15:30

日程：各全5回（10/6、10/20、11/3、11/17、12/1）

予備日 12/22

水曜日 午前クラス 10:30～12:30

日程：全5回（10/7、10/21、11/4、11/18、12/2）

予備日 12/23

※各クラスの間で振替出席が可能です。

【講座内容】

江戸時代には多くの古文書が作成されました。とくに、17世紀後半を境にその数は増加し、支配関係だけでなく、商売や町・村に関するものも多く作成されました。内容も多種多様で、当時の社会がどのようなものであったのか、隅々まで文字から読み取ることができます。士農工商といわれる身分制の社会は、どのように機能し、支えられたのでしょうか。政治、経済、社会という、あらゆる垣根を飛び越え考えます。今も昔も、文字には書く人それぞれの特徴がありますが、「いろは」よりも少しだけ難しいくずし字を読みながら、多様なくずし字の世界に触れていただければと思います。

【講師からひとこと】

江戸時代を楽しみましょう。表向きは265年もの間、武士が年貢を徴収することで維持された社会ですが、実は初期と中期、後期では社会は大きく変わりました。さまざまな古文書を読みながら、映画やドラマでは描かれない興味深い話も交えながら進めていきたいと思っています。

【講師プロフィール】

江戸時代の漁業（漁村）史を研究しています。千葉県南部や江戸前をフィールドに、沿岸漁業権の成立や江戸近郊の猟師町などの古文書を調査しつつ、市区町村の歴史をまとめた自治体史の編さんにも携わってきました。2011年には『江戸内海猟師町と役負担』（岩田書院）をまとめました。

いろはの次

－近世民俗史料の世界



【講師】 今野 大輔

金曜日 13:30～15:30

日程：全5回（10/2、10/9、11/6、11/20、12/4）

予備日 12/11

【講座内容】

本講座では江戸時代の史料の中でも、当時の人びとの暮らしなど日常を知ることができるものを取り上げます。武家や公家ではない、一般の人びとの生活の記録は残されにくいものでしたが、彼らの暮らしや考え方には現在の私たちのそれと連続性を持つものも少なくありません。

ここで読み進めるテキストは、各地の暮らしや歴史を記述した地誌や、江戸時代の不思議な話、噂話などを記録したものなどを取り上げていきます。現代の知識に照らし合わせれば、特別とも不思議とも思えない物事があるかもしれませんが、当時の人びとにとって特別であったもの、不思議であったことが何であるか、当時と現在との相違点や共通点を知るきっかけになるでしょう。

【講師からひとこと】

くずし字を読む時によくあることは、文字を読み解くことに集中してしまっていて内容がなかなか頭に入っていないことではないでしょうか。本講座ではくずし字を読むことはもちろんですが、内容を把握することも注意しながら、当時の人びと生活をみていきましょう。

【講師プロフィール】

専門は民俗学。成城大学民俗学研究所研究員、同文芸学部非常勤講師。柳田國男の書簡や原稿などのような、近代のくずし字資料を中心に扱っています。

【講座名】 本科コース

文人画と碑文

―掛軸を読む



【講師】 黒川 桃子

日曜日 13:30～15:30

日程：全5回（10/11、10/18、11/1、11/15、11/29）

予備日 12/27

【講座内容】

漢詩文と草書体の漢字、この二つを自由に読みこなせれば、多くの展覧会でもっと楽しめるはず、そう思った経緯は誰にも一度はあるのではないのでしょうか。本講座で扱うのは、主に江戸から明治にかけて作られた漢文体の墓碑、また漢詩の書きつけられた文人画です。漢文訓読の方法、漢詩の基礎知識、あわせて草書体の漢字を読むためのコツをお伝えしながら、豊穣な漢文学の世界を読み解いていきます。

【講師からひとこと】

ほんの150年程前まで、日本人は〈訓読〉を駆使して、今よりずっと漢詩文に親しんでいました。本講座で扱うのは、江戸から明治、時に大正にかけて日本人が綴った漢詩・漢文です。故人への思いを刻んだ漢文体の墓碑は、切なくも美しい第一級の文学です。文人画に題された漢詩を読みとけば、視覚だけでは決して得られなかった景色が見えてきます。噛めば噛むほど味わい深い漢詩文の魅力、文人たちの豊かな世界を、皆さんにお伝えしたく思っています。

【講師プロフィール】

清泉女子大学ほか非常勤講師。江戸から近代の漢文学、特に文人画や女性漢詩人を研究対象とする。主要論文に「江馬細香自画賛『墨竹図』考」、「近世女性詩人の誕生」、「田能村竹田の儒者意識」等がある。

【講座名】 本科コース

アーカイブズの保存・修復の知技能

―古文書保存のセラピスト講座



【講師】 青木 睦

火曜日 13:30～15:30

日程：全5回（10/13、10/27、11/24、12/8、12/15）

予備日 1/5

【講座内容】

古文書は、英語でアーカイブズ archives といいます。素材として馴染み深い”和紙”だけでなく、近代洋紙・酸性紙を「モノ」として保存する場合、身近に接する人は、損傷・劣化から守り、修復などを施し、永く保存していくため、セラピストとして癒し治療する役割を果たしていかなければなりません。江戸時代の古文書はどのように保存されてきたのか紹介します。最先端の専門的修復技術に触れていただきながら、これまでの保存修復を振り返り、今後の課題を探ります。アーカイブズ・博物館・図書館の保存修復の専門知識を習熟したい方は是非受講ください。

【講師からひとこと】

アーカイブズの保存・修復の知技能を修得するためのセラピスト講座です。保存環境・条件の整備、具体的な措置（保存容器や保護紙等による保護）、保存のためのデジタル化、保存を考えた取扱方などがあげられます。保存イコール修復ではありませんが、その技術を知っていることは必須ですので、身近な用具でできる修復の方法と技術を紹介します。

【講師プロフィール】

1981年から2023年3月まで、国文学研究資料館に勤務、紙資料を主とした保存修復に関する調査研究が専門です。文化財保存修復学会学会賞(2025年)を受賞。『被災資料救助から考える資料保存 東日本大震災後の釜石市での文書レスキューを中心に』（けやき出版、2013年）などがあります。

【講座名】 本科コース

武家文書を読む

―幕府崩壊事情



【講師】 岩崎 信夫

水曜日 13:30～15:30

日程：全5回（10/14、10/28、11/11、11/25、12/9）

予備日 12/16

【講座内容】

徳川幕府は、他の諸大名を圧する広大な領地を持ち、その経済力、軍事力は卓越していました。法律や制度の制定も、貨幣の発行も意のままでした。その幕府が、ペリー来航以来僅か15年でなぜ滅んだのでしょうか。幕府に危機感がなかったわけではありません。何を行おうとし、何が出来なかったのでしょうか。天保の改革まで遡って検討しています。テキストは改革を主導した老中、水野忠邦の日記です。今期は1843（天保14）年です。忠邦は改革の頓挫を予期していたのでしょうか。

【講師からひとこと】

文書の大きな筋を読み解くことを中心にしながら、近世のくずし字の大事な要点では、くずし方や筆順などを丁寧に追いかけてみたいと思います。文書自体の持つ魅力、内容をいくらかでも引き出せたらと思っています。

【講師プロフィール】

目黒区めぐろ歴史資料館の「武島家文書目録」解題執筆。『東北大学本浮浪追討記』『武嶋家本浮浪追討記』翻刻の解題担当。「幕末別手組の活動と身分」（『日本歴史』2013年10月号）をまとめました。これを幕末軍制改革の視点に位置づけ『幕末幕府の軍制改革と徳川慶喜』（南方新社2025年）を上梓しました。

【講座名】 本科コース

幕末・江戸庶民の世相を読む
—「嘉永雑記」の世界



【講師】 小沢 詠美子

木曜日 10:30～12:30

日程：全5回（10/8、10/22、11/5、11/19、12/3）

予備日 12/10

【講座内容】

弘化2年(1845)、いったんは再任された老中を再び罷免された水野忠邦が、減俸・蟄居を命じられたことにより、天保の改革が事実上挫折したといえる弘化年間(1844～47)、そしてその後の嘉永年間(1848～54)の世相を、「嘉永雑記」から読み解いていきます。この時期は、幕府が崩壊に向かう序章期ともいえ、興味深い出来事が多々発生しているのです。なお、この「雑記」とは内閣文庫に所蔵されている史料で、政治的な諸事件や市井の事件、災害など、多岐にわたる記録です。この中から、江戸に関する記述を中心に読み進めてまいります。

【講師からひとこと】

ただ単に文字を読み解くだけ、ということではなく、むしろ当時の社会背景や歴史的意義、その時代だからこそ発展できた文化など、おもに江戸の特性について深く掘り下げてご紹介していきます。都市・江戸に興味を持ち、考察を広げていただければ幸いです。私も、受講生の皆様と一緒に勉強させていただきます。

【講師プロフィール】

専門は近世都市史。成城大学民俗学研究所研究員、同学非常勤講師。おもな著書に『お江戸の経済事情』『江戸時代の暮らし方』など。NHK ドラマ「西郷どん」「みをつくし料理帖」などの風俗考証担当。

講座名】 本科コース

くずし字で楽しむ
江戸歌舞伎



【講師】 埋忠 美沙

土曜日 13:00～15:00

日程：全5回（10/3、10/31、11/14、12/5、12/26）

予備日 1/9

【講座内容】

本講座はくずし字を学びながら歌舞伎に親しんでいただくことを目的としています。今期は幕末に上演された作品のうち〈悪婆〉が活躍する作品を扱います。〈悪婆〉とはゆすりかたといった悪事を働く女性のことで、恋しい男につくす性根が特徴です。江戸後期に新たに歌舞伎に登場するようになった役柄ですが、女形の魅力をおおいに堪能することができます。台本でくずし字を学びながら、作品の背景や、演技演出についてお話しします。

【講師からひとこと】

扱う作品は選定中ですが、作品を通して丁寧に読み進めていきます。全5回の授業では完結せず、今回から3クール程かけて読み進める予定です。台本の他、番付や浮世絵などの江戸時代の一次資料も扱います。歌舞伎の知識がなくても安心してご参加ください。くずし字のレベルは、基本的なひらがなは読めるものとして進めてゆきます。

【講師プロフィール】

専門は江戸と明治の歌舞伎。お茶の水女子大学准教授。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（PD）、早稲田大学文学部助教授、同大演劇博物館助教授などを経て現職。著書に『江戸の黒阿弥——善人を描く』（春風社、2020）。

【講座名】 特別講座

福井藩『続再夢紀事』
を読む



【講師】 桐野 作人

火曜日 19:00～20:30

日程：全5回（10/13、10/20、11/10、11/24、12/8）

予備日 1/5

【講座内容】

幕末の福井藩は藩主松平慶永（春嶽）を中心に、幕末史に大きな足跡を残しました。同藩の藩史編纂は非常に詳細で、嘉永6年(1853)6月のペリー来航から、慶応4年(1868)8月まで、じつに15年間に及んでいます。本講座はそのうち、文久2年(1862)8月から慶応3年(1867)10月までの5年間の記録『続再夢紀事』を他の関連史料とともに読み進めていきます。同藩の国事交渉は頻繁かつ広範囲で、幕末の政治状況を知るのに適した史料です。

【講師からひとこと】

本講座は、くずし字の解読ではなく、活字になった史料（手紙・建白書・日記など）を読みながら、記主の行動や思い、当時の時代背景などを、他の関連史料とともに探り、考えていく講座です。初心者の方でも関心のあるテーマや人物であれば、興味深く読めて、より深い理解が得られるよう努めるつもりです。

【講師プロフィール】

歴史作家。武蔵野大学政治経済研究所客員研究員。幕末維新史や織豊期を中心に執筆・研究・講演を行う。主な著書に『龍馬暗殺』『西郷隆盛という生き方』『薩摩の密偵 桐野利秋』『村田新八』『孤高の将軍徳川慶喜』『さつま人国誌』幕末・明治編1～3『織田信長—戦国最強の軍事カリスマー』など多数。

【講座名】 特別講座

開国ニッポンの外国人

【講師】 熱田 充克



水曜日 13:30~15:00

日程：全5回（10/7、10/21、11/4、11/18、12/2）

予備日 12/23

【講座内容】

幕末から明治にかけて、日本にやってきた外国人に注目します。毎回一人の外国人を取り上げて、その人がなぜ日本にやってきたのか、日本でなにをしたのか、当時の日本人たちとどういう付き合いをしたのか、そして日本にどんな印象を持ったのか—そういった点を詳しくみていきます。日本にきたことで、その外国人の人生がどう変わったのかも興味がある点です。イギリス、フランス、ドイツ、アメリカなど国籍は様々です。外交官、教師、ビジネスマン、宣教師、旅行者、ジャーナリストなど職業もまちまちです。有名人もいれば、ほとんど誰も知らない人たちも登場します。100年前、150年前の日本は彼ら、彼女らにはどう見えたのでしょうか？各種の文献や資料をあたったり、専門家に取材したりした内容は、いわば「教室で上映するドキュメンタリー番組」です。それを生放送でお届けします。一話完結なので、初めての方も歓迎です。

【講師からひとこと】

幕末から明治にかけて日本にきた外国人、その人探しをずっとやっています。図書館の古い棚の奥で、ほこりをかぶった古書のページからひょっこり顔を出す人もいます。100年以上も前に発行された外国の新聞の片隅で見つかる時もあります。そうして見つけた外国人を現代の日比谷の教室に連れてきて、毎回ご紹介しています。

【講師プロフィール】

毎日新聞記者を経てフジテレビ報道局ディレクター。在職中に調査報道番組「検証・C型肝炎」で新聞協会賞などを受賞。パリ特派員時代から20年間の長期取材で『パリの漆職人菅原精造』（白水社）を出版。異文化の交流にとっても興味を持っています。会社退職後、現在はフリー・ジャーナリスト。

【

【講座名】 特別講座

江戸を楽しむ

—江戸の寺社あれこれ



【講師】 浦井 祥子

木曜日 18:30~20:00

日程：全5回（10/1、10/15、10/29、11/12、11/26）

予備日 12/10

【講座内容】

本講座は、江戸について楽しく学んでいただくことを主旨としています。その期のテーマに沿って、文字史料や絵画史料を適宜使いつつ、お話をさせていただきます。今期は、引き続き「江戸の寺社」がテーマです。江戸時代、公家・武家・町人など、あらゆる階層の人びとにとって、寺院や神社は身近な存在でした。寺社文書などを繙くと、当時の宗教（信仰）のあり方、葬儀・墓の形式、寺社と盛り場の様子など、さまざまなものが見えてきます。いくつかの寺社文書と、それに関係する文書などを用いながら、江戸の寺社について、あれこれ楽しく学んでみたいと思います。初めての方もどうぞおいで下さい。

【講師からひとこと】

史料として一部くずし字の史料を使用しますが、くずし字の基礎的な知識や読解の経験は問いません。江戸時代に興味のある方に、さらに江戸を楽しむきっかけになっていただけたらと思います。

【講師プロフィール】

専門は近世史。台東区文化財保護審議会委員、徳川林政史研究所特任研究員。江戸の時刻制度を中心に、江戸～明治期について研究している。著書に『江戸の時刻と時の鐘』共編に『浅草寺日記』などがある。

【講座名】 特別講座

江戸・明治の書状を読む

—形式と内容、一步から



【講師】 藤富 史花

金曜日 18:30~20:00

日程：全5回（10/2、10/16、10/30、11/13、11/27）

予備日 12/4

【講座内容】

本講座は、くずし字で書かれた候文に親しみ、読解できるようになることを目的としています。主に江戸後期～明治期の志士や儒者、文人、政治家などが書いた書状を扱い、かなだけではなく、漢字のくずし字にも多く触れていただきたいと思います。書状の形式や、候文特有の言葉遣いなどについても解説しながら、一次史料を読むおもしろさを感じていただければと思います。

【講師からひとこと】

書状と一口に言っても、そこに書かれている内容は人事万般、多岐にわたります。それを読むだけでも大変興味深いのですが、書き手の人柄や、宛先の人物との関係性までもが浮かび上がってくることが、手紙を読む醍醐味の一つではないでしょうか。くずし字読解の経験があると書状にスムーズに入っただけかと思ひます。

【講師プロフィール】

専門は江戸後期の漢詩文。江湖詩社の柏木如亭・大窪詩仏・菊池五山や頼山陽など、江戸後期の文人について興味関心を持ち、研究しています

特設・月1回コース

翻字者育成講座

〔協力・NPO法人〈源氏物語電子資料館〉〕



〔講師〕 伊藤 鉄也

変体仮名の翻字ができる方が、一人でも多く育ってほしいと願って開講する講座です。「翻字」とは、書写された文字を正確に復元させる、移し換えのことです。毎月1回 土曜日午後90分の講座ですが、扱うテキストの相違により二講座あります。

※『百人一首』を2種類の変体仮名でよむは、『**変体仮名でよむ 百人一首**』（伊藤・吉村編 新典社 2025 年）

を、別途テキストとして用います。

〈お手持ちでない場合は、弊塾にて承ります〉

〔講座名〕 特設・月1回コース

相愛大学本『源氏物語 宿木』の 変体仮名をよむ

土曜日 13:00～14:30

日程：全3回（10/17、11/21、12/19）

〔講座内容〕

本講座で読むのは鎌倉時代の古写本で、相愛大学蔵『源氏物語 宿木』です。ただし、その一部分（断簡）だけが現存しています。ハーバード大学蔵『源氏物語』とツレの写本かと思われ、国文学研究資料館から公開中の画像をテキストとして印刷配布します。鎌倉時代の変体仮名が読めるようになる技術の習得が当面の目標です。どの回からでも参加できるようになっています。

〔講師からひとこと〕

変体仮名を読める方が、一人でも多く育ってほしいと願って開講しています。物語本文の解釈や鑑賞はしません。変体仮名が自由に読めるようになった方は、講師主宰の本文データベースを構築するプロジェクトで腕を磨いてください。

〔講師プロフィール〕

NPO法人〈源氏物語電子資料館〉代表理事。博士（文学、大阪大学）。主編著は、『源氏物語別本集成-正統 22 巻』、『源氏物語受容論序説』、『源氏物語本文の研究』、『もっと知りたい 池田亀鑑と「源氏物語」全4集』、『日本古典文学翻訳事典 1・2』、『平安文学翻訳本集成』他多数。

〔講座名〕 特設・月1回コース

『百人一首』を2種類の 変体仮名でよむ

土曜日 15:30～17:00

日程：全3回（10/17、11/21、12/19）

〔講座内容〕

『百人一首』のカルタには、優雅な歌人の絵姿と美しい書体で和歌が書かれています。今回使う2種類のカルタを収めたテキストは、江戸時代に書かれた変体仮名の気品あふれるものです。日本の伝統的な文化資産である変体仮名が、自由に読めるようになります。なお、和歌の解釈や鑑賞はしません。

〔講師からひとこと〕

テキストには、講師が編集した『変体仮名でよむ 百人一首』を使います。陽明文庫旧蔵『百人一首』と国文研蔵『鶴丸紋／哥かるた』を収録しています。現代の活字を読むこととの違いを、実感してください。崩し字を一字ずつ確認しながら読み進めるので、古写本を読む技術も身につきます。

〔講師プロフィール〕

NPO法人〈源氏物語電子資料館〉代表理事。博士（文学、大阪大学）。主編著は、『源氏物語別本集成-正統 22 巻』、『源氏物語受容論序説』、『源氏物語本文の研究』、『もっと知りたい 池田亀鑑と「源氏物語」全4集』、『日本古典文学翻訳事典 1・2』、『平安文学翻訳本集成』他多数。